

<編集部にて>の訳

- W: マイア一君、今回はノルトライン・ヴェストファーレン州について書いてくれる？
 今週は、州都デュッセルドルフと旧西ドイツの首都ボンがテーマよ。
- M: ケルンの北にあるデュッセルドルフとケルンの南にあるボンですね。
- W: 来週になったら、あなたの大好きな町ケルンについて書かせてあげられるから！
- M: そうこなくっちゃ！ でもまずは北の方、デュッセルドルフに行ってください。
- W: さてマイア一君、どんな情報が手に入ったかしら？
- M: デュッセルドルフは、かつてデュッセル川のほとりにあるドルフ、つまり村だったんですが、今日では57万6,000の人口を擁しています。1946年にヴェストファーレンとラインラントの両地域が統合するにあたって州都となり、いくらか皮肉っぽく「州の事務机」なんて呼ばれています。
- W: 「事務机」っていうのはうまい表現ね。デュッセルドルフにはたくさん行政機関、裁判所、官庁だけでなく、大きな銀行や会社もあるものね。デュッセルドルフの日本人についてはどうかしら？
- M: デュッセルドルフは、ドイツで日本人の数が一番多いんです。ここでもまたおもしろい呼びび方があります。すなわち「Klein-Tokyo (リトル東京)」。それにほとんどの日本の会社や商店があるインマーマン通りは「Japaner-Meile (日本人通り)」って呼ばれていたりするんです。
- W: 「Klein-Tokyo」というのはわかるけど、「Japaner-Meile」って？ デュッセルドルフの人たちは、なぜそんな言い方を思いついたのかしら？
- M: 一定の道程を表す古い言い方「Meile」という言葉を使って、たくさん日本人がいる通りの端から端までの一定区間を、まさに「Japaner-Meile (日本人通り)」って呼んだんです。
- W: そういう注釈をつけさせてもらえれば、おもしろいと思うんですが。
- M: まあ、いいでしょう。実際のどのくらい日本人がいるのかしら？
- M: 首都がベルリンへ移転する前には、およそ1万人が住んでいました。今でも約7,000人の日本人が住んでいます。質のいい日本のインフラも整っていて、日本の商店、銀行、レストラン、日本人学校、それにお寺などもあります。西ヨーロッパの中で地理的にも便利な場所にあるので、デュッセルドルフは依然として人

気のある町なんです。

W: ええ、デュッセルドルフは西ヨーロッパのちよど真ん中あたりに位置しているわね。それから日本の商店やレストランは、今ではドイツ人の間でもとても人気があるのよ。

<雑誌記事>の訳

デュッセルドルフとボン

1946年からノルトライン＝ヴェストファーレンの州都であるデュッセルドルフは、人口およそ57万6,000人。モードや見本市の町として、あるいは芸術、演劇、コンサートによって有名であるだけでなく、「世界で一番長い酒場のカウンター」としても知られています。ライン地方のカトリック教徒であるデュッセルドルフの人々は、ケルンの人々と常にライバル関係にあります。しかし、同様に生きる喜びを知っている人々であり、デュッセルドルフ特有のアルトビールを発明しました。それをデュッセルドルフの旧市街にある多くのビール醸造所や居酒屋で飲むのです。それまた好きだけでなく、たくさん飲みます。旧市街の真ん中には、ハインリヒ・ハイネの生家もあります。またそれほど遠く離れていないところにゲーテ博物館とハインリヒ・ハイネ博物館があります。デュッセルドルフには、何千という日本人住民が暮らしています。彼らは日本食レストラン、日本のものを売っている商店、その他生活に不可欠な施設といったインフラストラクチャーを設けたのですが、それらはドイツ人にも好んで利用されています。

ボンは、1949年に連邦首都になる前は、ライン川沿いの小さな町（現在の人口は、およそ30万！）でした。東西両ドイツ統一（1990年）後、ベルリンが古くて新しい連邦首都に選ばれました。すべての政府施設のベルリンへの移転が終わるまでには、さらに数年の年月がかかったのですが、いくつかの省の部の局は今日もおボンにありまします。ボンにある「歴史博物館」は、とりわけ表現力豊かにさまざまな形で、ドイツ連邦共和国の歴史について教えてくれます。

ボンという町が生んだ最も有名な息子はルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770-1827年）ですが、その生家はボンの中心で見学することができます。

(トーマス・マイアー)